

標 題 : Extra-virgin olive oil for potential prevention of Alzheimer disease
エクストラバージンオリーブ油、アルツハイマー病の予防を期待して

著 者 : G. C. Román, et al. (米国 テキサス州 ヒューストン・メソジスト病院
神経学研究所)

掲 載 誌 : Rev Neurol (Paris). 2019 Dec; 175(10): 705-723.

要 旨 :

血管系疾患の有病率が非常に低い集団で観察された、天然に存在する予防因子に関する有益な情報を、観察疫学研究が提供する。

1935 と 1965 年の間に、ロゼト(米国、ペンシルベニア州)のイタリア系アメリカ人住民は伝統的なイタリア食事を順守して、近隣都市と比較して半分の心筋梗塞による死亡率を維持した。

7カ国研究で、40年の間に(1960-2000年)クレタ島民は最も低い総死亡率および冠動脈疾患の死亡率を維持しており、それは地中海食の厳格な順守の結果と考えられた。

フランス3都市研究で、オリーブ油の高い摂取量は低い死亡リスクそれに認知低下および脳卒中の予防と関連すると、10年間の追跡(2000-2010年)が示した。

地域住民をベースにした研究および介入研究の多くで、血管系疾患、肥満、関節炎、がん、および加齢関連の認知低下の低いリスクと地中海食が関連したと実証されている。

これらの作用の多くは、果物、種子、豆類および野菜の摂取の結果であるが、オリーブ油は地中海諸国で主な食用油脂であり、一価不飽和脂肪酸の主原料そして有益なポリフェノールと他の抗酸化物の重要な原料である。

アルツハイマー病の遅い発症の原因として血管要因の重要な役割を考慮すると、証明済の食事療法による疾患修飾に注目するのが適切とみられる。

血管系疾患の予防についての疫学研究データ、多くの実験研究、およびエクストラバージンオリーブ油とその構成成分の作用機構に関する包括的な総説のメタ解析に基づく仮説を、筆者は基準として用いる。

さらにエクストラバージンオリーブ油は、アルツハイマー病の実験動物モデルに対して有益な影響をした。

エクストラバージンオリーブ油は有害な血管因子の影響を軽減する有望な道具でありそしてアルツハイマー病の後期発症を予防するために使用できるであろうと、我々はその結果として提案する。

キーワード : アルツハイマー病、脳血管疾患、地中海食、オリーブ油、環境神経学

著作権© 2019年 Elsevier Masson SASによって出版された。
